

23PO-pm212

カカオポリフェノール投与による血管内皮機能への影響(第2報):メタアナリシスによる検討

○西田 真子¹, 速水 耕介¹, 長井 優希¹, 早野 慎太郎¹, 松本 佳祐¹, 森 啓¹, 出雲 信夫¹, 渡邊 泰雄¹, 中野 真¹ (¹横浜薬大)

【目的】生活習慣病の発症及びその進行について血管内皮機能の関与が注目されている。カカオポリフェノール(CP)は血管内皮由来の血管拡張作用を有する事が報告されており、血管内皮機能の改善が期待されている。我々は、血管内皮機能の指標としてFlow Mediated Dilation(FMD)への影響をメタアナリシスで検討したところ、CPの摂取によりFMDが有意に上昇することを報告した。(第138回日本薬理学会関東部会)

本報告では、FMD以外の指標について検討を加えるため、Pulse wave velocity(PWV)、Augmentation Index(AIx)、血圧を指標とし、メタアナリシスを行った。また、CPの摂取による有害事象の発生についても検討を加えた。

【方法】検索データベースとして、PubMed, Cochrane Library, EBSCO host, 医中誌Webを用いてRCTで実施された報告を検索した。統合解析は、Rev. Man. 5.3を用い、各アウトカムはWMD(Weight Mean Difference)と95%CIを算出し、Random Effect Modelで統合解析した。【結果と考察】各アウトカムの介入前後の変化について統合解析を行ったところ、CPの摂取により、PWVと血圧の有意な低下が観察された。一方でAIxは有意な低下を示さなかった。また、CPの摂取期間中、出血、頭痛、めまいなどの有害事象が報告されていたが、因果関係は不明であった。